

かんぴょうで結ぶ交流

とちぎ・かんぴょう伝来300年記念大会が8月4日、栃木県壬生町中央公民館で開催されました。この大会は、1712年に水口藩(甲賀市)から下野国壬生藩現在の栃木県に国替えになった鳥居忠英公がかんぴょうを伝えたこと、伝来300年目の節目を迎えることから、地元産地の栃木県宇都宮市や壬生町など3市2町と関係団体で構成する実行委員会が主催して行われたものです。

水口かんぴょうは生産者が年々減少し、現在では出荷する農家は10数件になっています。栃木県は全国の9割強を占める350トン余りの出荷量を誇りますが、それでもピーク時の1割になり、最近では中国の廉価品の増加が目立つようになってきています。

開催地の壬生町小菅一弥町長は、「栃木の特産品として守っていかねばならず、伝来300年を新たなスタートの年としたい」と抱負を述べ、かんぴょうルーツのまちとして出席した中嶋甲賀市長は「甲賀市も復活運動に取り組んでいくが、素朴であつても日本の食に欠かせないかんぴょうづくりをしつかり担っていただき、本物づくりを続けていただきたい」とエールを送りました。



▲中嶋市長も式典でスピーチを

初めての搾乳・乗“牛”体験

夏休みショートステイIN信楽

7月26日から8月9日までの15日間、東北や関東地方の親子を迎えて「夏休みショートステイIN信楽」が開催されました。



▲久しぶりに屋外でおもいっきり遊べました

この催しは、福島第1原子力発電所での事故を受け、放射能の影響で屋外の遊びを制約される親子らに、信楽の自然の中で安心して夏休みを過ごしてもらおうと、育児サークル「なちゅらる・まま」が中心となって企画したものです。

東日本在住の親子20組以上が社会福祉施設である「紫香楽ヴィラ」を拠点とし、信楽各地での自然体験などを楽しみました。

このうち8月2日は、信楽町神山の「山田牧場」を訪れ、牛に乗ったり、乳搾りなどを体験され心の底から安心して1日を楽しんでいました。

自然学習でたくましくなった5日間

「にんにん忍者キャンプ」が8月7日から11日までの5日間、竜王町にある県立希望が丘文化公園を中心に行われ、市内の小学校4年生から6年生までの児童42人が参加しました。今回のキャンプでは、22人の「キャンプリーダー」と呼ばれる大学生のスタッフたちが約3か月前からキャンプの全ての内容を準備し、楽しく安全にキャンプ生活を送れるように指導を行いました。



▲3日目には、自分たちで火を起こせました

食事の準備では、火や刃物の扱い方、また他の生物の命をいだけて自分たちが生きているということを知る貴重な経験の場となりました。最初は慣れない手つきでキャンプリーダーに手伝ってもらいながら調理や火おこしなどを行っていましたが、回を重ねるにつれ自分たちだけでもできるようになり、貴重な経験を積んだ夏休みを過ごしました。



大歓声の花火大会

J Aこうが駐車場が7月28日、恒例の甲賀夏まつりが開催されました。

会場中央のメインステージでは、水口囃子テケテンキッズや、甲南太鼓の演奏などが行われ、またふれあい合宿として市を訪れていた三保ヶ関親方(元大関増位山)と同部屋の内力士である阿欄関が特別ゲストとして参加しました。

会場には地域の商店や団体等による屋台の前には多くの人だかりができていました。フィナーレには1500発の花火が打ち上げられ、見物されていた皆さんから歓声が上がリ、夏の風物詩はクライマックスを迎えました。



▲三保ヶ関親方と阿欄関が特別ゲストに

川面に映る灯籠が 創りだした別世界

杣川夏まつり

三大寺区内の杣川河川敷で杣川夏まつりが8月16日、開催されました。この祭りは、世界平和と東日本大震災からの復興などを願い、例年行われているもので、今年で20回目を迎えます。

日が暮れると、杣川に多くの灯籠が流され、川面に映りゆらめきながら流れていくその幻想的な光景に「まるで、違う世界にきたみたい」と、見物されている方からの声が聞かれました。



灯籠とかがり火の灯が川面に美しく映えています▶



あさみや茶振興会
会長 山本靖さん
山本容子さん

66

8月4日、5日に大津港で開催された「第2回滋賀B級グルメバトル」に、甲賀市から出場した「あさみや茶振興会」の「朝宮茶スイーツ「あさみや金時」」が、全60品の中からグランプリに輝きました。

今回は、昨年の第1回からこの「あさみや金時」を出品されているあさみや茶振興会会長の山本靖氏と商品開発者の山本容子氏からお話を伺いました。

Q:グランプリ受賞おめでとうございます。まず、出場された動機をお伺いしても良いですか?

ありがとうございます。私たち「あさみや茶振興会」は朝宮茶を使って、朝宮のまちおこしを考えています。歴史も古く、味も一流といわれる朝宮茶ですが、知名度を上げ、またみなさんにもっと気軽にその味を知っていただけるよう以前から試行錯誤を重ねてきました。

Q:グランプリの成果は?

滋賀だけでなく、近隣府県の皆さんに「朝宮」の名を知っていただけたのではないかと思います。上質な茶の産地として、「あさみや金時」のような茶を使ったスイーツなども気軽に楽しめる、訪れて楽しい地域だと思っていただき、足を運んでいただけるようになると嬉しいですね。

Q:B級グルメバトルは大きな大会ですが、どのように取り組まれたのでしょうか?

昨年の盛況に引き続き、今回も15万人のお客様がいらっしゃったほどの大きな催しです。「あさみや金時」は私どもが経営するカフェのメニューとして7年前に開発し、人気メニューとして親しまれてきました。昨年、第1回のグルメバトルが開催されると聞き、朝宮茶を、また朝宮の地を広くPRできる絶好の機会だと思い、これまでから人気のあった「あさみや金時」で出店することを思い立ちました。しかし、より多くの方に朝宮茶の魅力を知ってもらうには、多くの食数を提供する必要がありますが、私たちだけでは到底不可能だと思えたため朝宮の振興のために協力していただける方を募り、入念に準備をしたうえでグルメバトルに臨みました。

今年は、前回3位に終わった反省を踏まえて、更に多くの方に来ていただけるようにスタッフ全員で工夫や訓練を積み、悲願であったグランプリをいただくことができました。

Q:グランプリを獲られた次の目標をお聞かせ願えますか?

まずは、この「あさみや金時」で朝宮のまちを活性化させていきたいと思いますが、次なる目標は全国大会に出場したいと思っています。全国ともなれば、行政や他の地域の皆さんと一丸になって、甲賀市としての商品を新たに創りださないとはいませんが、私たちの「あさみや金時」だけでなく甲賀市の商品は数多く上位に入ってきているので、十分可能だと思います。その時は甲賀市を盛り立てる一翼としてがんばりたいと思います。



◀山本さんのお店で味わえる「あさみや金時」